

「ゼロカーボンベースボールパーク」に係る グリーンファイナンス・フレームワーク



阪急阪神ホールディングス株式会社

2025 年 1 月

1. はじめに

阪急阪神ホールディングス株式会社（以下、「当社」という）は、当社子会社の阪神電気鉄道株式会社、株式会社阪神タイガースが行う、阪神タイガース新ファーム施設を含む尼崎市小田南公園（以下、「ゼロカーボンベースボールパーク」）を整備する計画に係る資金調達を目的として、以下の通り、グリーンファイナンス・フレームワーク（以下、「本フレームワーク」という）を策定しました。

1.1 グリーンファイナンス・フレームワーク策定の意義

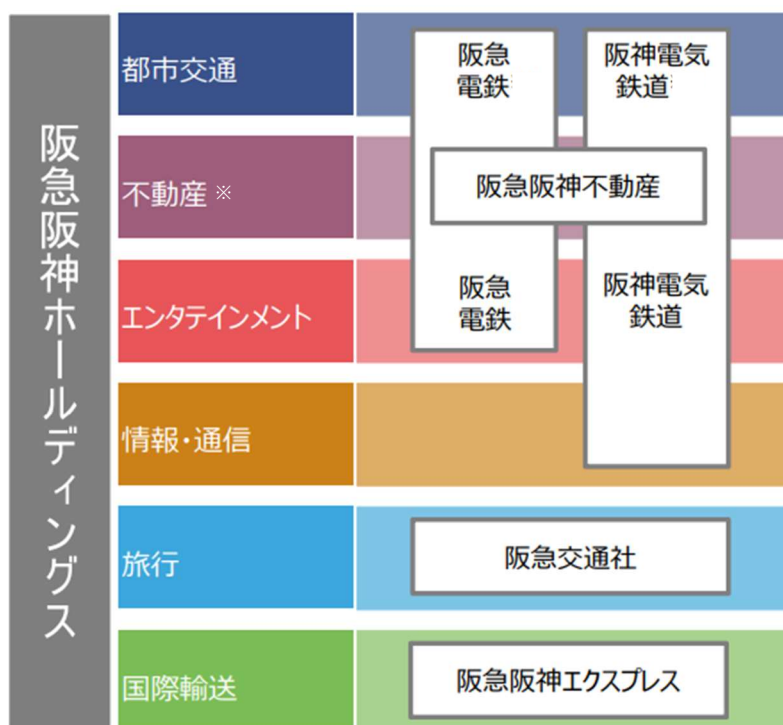
ゼロカーボンベースボールパーク（詳細は「3. ゼロカーボンベースボールパークについて」に記載）は、当社が目指す2050年カーボンニュートラルの実現、そして持続可能な社会の実現のために資する取組みであり、本フレームワークを策定しグリーンファイナンスを実行することは、各ステークホルダーの皆様に対しても、理解を深めていただく重要な機会になるものと考えています。



2. 阪急阪神ホールディングスグループ 経営の基本方針

当社グループでは、都市交通、不動産、エンタテインメント、情報・通信、旅行及び国際輸送の6つの事業を主要な事業領域と位置付け、グループ経営機能を担う当社（純粋持株会社）の下、阪急電鉄株式会社、阪神電気鉄道株式会社、阪急阪神不動産株式会社、株式会社阪急交通社及び株式会社阪急阪神エクスプレスの5社を中核会社として、グループ全体の有機的な成長を目指しています。

2024年12月末時点



※不動産事業では、大阪梅田・沿線エリアにおいて、阪急電鉄及び阪神電気鉄道が賃貸・開発用不動産を保有しながら、阪急阪神不動産と協働して、交通ネットワークや地元自治体等と連携したまちづくりを推進しています。

当社グループは、鉄道事業をベースに住宅・商業施設等の開発から阪神タイガースや宝塚歌劇など魅力溢れるエンタテインメントの提供に至るまで、多岐にわたる分野において、それまでになかったサービスを次々と提供することにより、沿線をはじめ良質な「まちづくり」に貢献するとともに、社会に新風を吹き込み、100年以上の長い歴史の中で数々の足跡を残してきました。そして、これらの活動等を通じて、暮らしを支える「安心や快適」、暮らしを彩る「夢や感動」を絶えずお客様にお届けしてきました。今後も、グループの全役員・従業員が、お客様の日々の暮らしに関わるビジネスに携わることに強い使命感と誇りを持ち、そうした思いを共有し、一丸となって業務にあたっていく上での指針として、以下のとおり「阪急阪神ホールディングスグループ経営理念」を制定しています。

阪急阪神ホールディングス グループ経営理念

使命（私たちは何のために集い、何をめざすのか）

「安心・快適」、そして「夢・感動」をお届けすることで、お客様の喜びを実現し、社会に貢献します。

価値観（私たちは何を大切に考えるのか）

<u>お客様原点</u>	すべてはお客様のために。これが私たちの原点です。
<u>誠実</u>	誠実であり続けることから、私たちへの信頼が生まれます。
<u>先見性・創造性</u>	時代を先取りする精神と柔軟な発想が、新たな価値を創ります。
<u>人の尊重</u>	事業にたずさわる一人ひとりが、かけがえのない財産です。

行動規範（「価値観」を守り、「使命」を果たしていくために、私たちはどのように行動するのか）

1. 私たちは、出会いを大切にし、お客様の立場に立って最善を尽くします。
2. 私たちは、法令遵守はもとより、社会的責任を自覚して行動します。
3. 私たちは、仕事に責任と誇りを持ち、迅速にやり遂げます。
4. 私たちは、目先のことのみにとらわれず、中長期的な視点で考えます。
5. 私たちは、現状に満足することなく、時代の先を見据えて取り組みます。
6. 私たちは、思いやりの心を持ち、お互いを認め合います。
7. 私たちは、活発にコミュニケーションを行い、風通しのよい職場をつくります。
8. 私たちは、グループ全体の発展のために力を合わせます。

2.1 阪急阪神ホールディングスグループ サステナビリティ宣言

当社グループでは、持続的な成長を目指していくためのベースとして 2020 年に策定した「阪急阪神ホールディングスグループ サステナビリティ宣言」に基づき、ESG（環境・社会・企業統治）に関する取組をさらに加速させるとともに、事業を通じて社会課題の解決に努め、持続的な企業価値の向上、ひいては持続可能な社会の実現を目指します。

＜サステナビリティ宣言の概要＞

基本方針

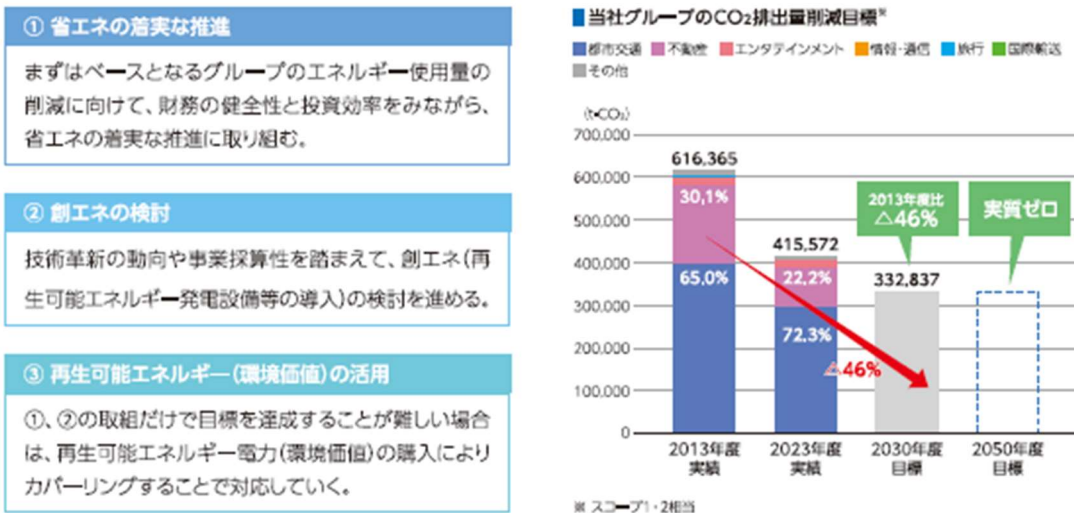
～暮らしを支える「安心・快適」、暮らしを彩る「夢・感動」を、未来へ～ 私たちは、100年以上積み重ねてきた「まちづくり」・「ひとづくり」を未来へつなぎ、 地球環境をはじめとする社会課題の解決に主体的に関わりながら、 すべての人々が豊かさと喜びを実感でき、 次世代が夢を持って成長できる社会の実現に貢献します。	
---	--

6つの重要テーマ（マテリアリティ）	取組方針
① 安全・安心の追求	鉄道をはじめ、安全で災害に強いインフラの構築を目指すとともに、誰もが安心して利用できる施設・サービスを日々追求していきます。
② 豊かなまちづくり	自然や文化と共に、人々がいきいきと集い・働き・住み続けたいくなるまちづくりを進めます。
③ 未来へつながる暮らしの提案	未来志向のライフスタイルを提案し、日々の暮らしに快適さと感動を創出します。
④ 一人ひとりの活躍	多様な個性や能力を最大限に発揮できる企業風土を醸成するとともに、広く社会の次世代の育成にも取り組みます。
⑤ 環境保全の推進	脱炭素社会や循環型社会に資する環境保全活動を推進します。
⑥ ガバナンスの充実	すべてのステークホルダーの期待に応え、誠実で公正なガバナンスを徹底します。

ゼロカーボンベースボールパークに係るプロジェクトは、上記サステナビリティ宣言の重要テーマにおける「①安全・安心の追求」、「②豊かなまちづくり」、「③未来へつながる暮らしの提案」、「⑤環境保全の推進」に該当します。

2.2 カーボンニュートラルの実現に向けて

当社グループでは、2022年5月に策定した長期ビジョンで、パリ協定の目標である1.5℃シナリオの実現に向け、2050年度のCO₂排出量の目標を「実質ゼロ」と定め、2030年度の間目標として、2013年度比▲46%を掲げています。「カーボンニュートラルに向けた基本的な取組方針」に沿って、様々な取組を推進しながら、お客さまや地域との連携も強化することで、CO₂排出量の削減を着実に進めています。



ゼロカーボンベースボールパークに係るプロジェクトは、「お客さまや地域との連携による取組」として、上記「カーボンニュートラルに向けた基本的な取組方針」のうち、「① 省エネの着実な推進」及び「② 創エネの検討」に該当します。

3. ゼロカーボンベースボールパークについて

3.1 概要

阪神電気鉄道では、「ゼロカーボンベースボールパーク整備計画」として、阪神タイガースファーム施設（2 軍本拠地）の移転先として予定されている兵庫県尼崎市の小田南公園をはじめ、公園への動線となる尼崎市内の阪神電車各駅において、徹底した省エネ化、再エネ設備の導入などに取り組み、エリア全体の脱炭素化を目指しています。

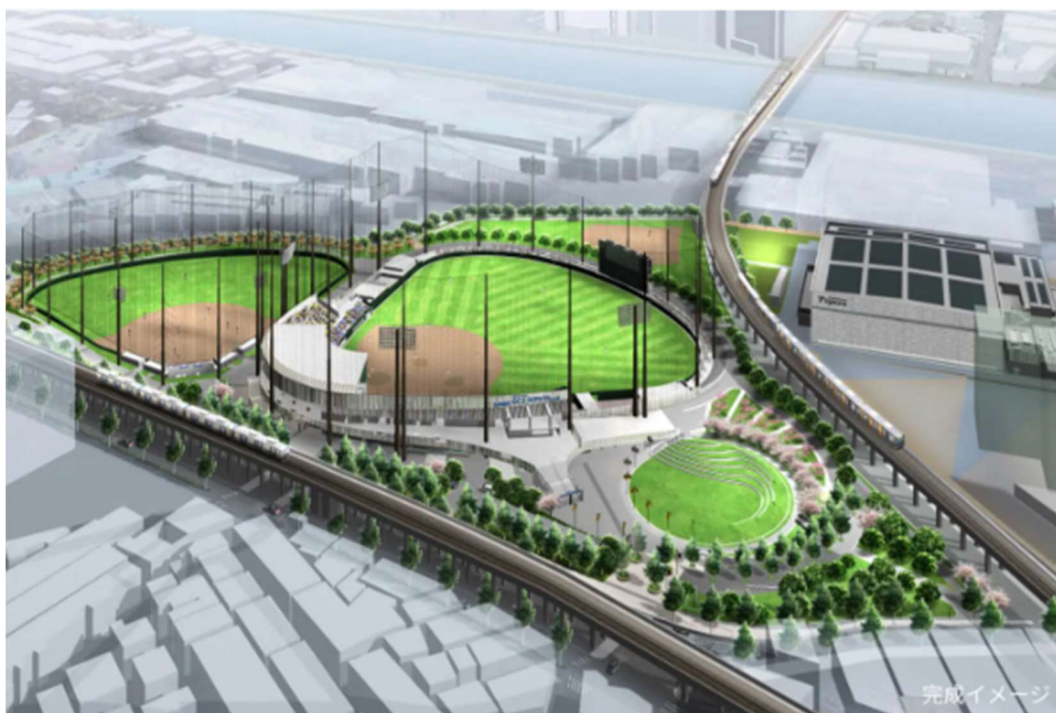
本計画は、尼崎市と阪神電気鉄道による共同提案として、2022 年 4 月に環境省の「第 1 回脱炭素先行地域※」に選定されました。

選定にあたっては、阪神タイガースと連携することにより、まちづくり・観光振興・地域活性化と脱炭素化との両立を目指した提案の実現可能性の高さや、アナウンス効果の大きさが評価されたことに加えて、公園への動線となる鉄道駅の脱炭素化や EV バスの導入計画も評価されました。

ゼロカーボンベースボールパークでは、阪神タイガース 2 軍本拠地として、日鉄鋼板 SGL スタジアム 尼崎、タイガース練習場、室内練習場、選手寮兼クラブハウスを新設します。また、阪神タイガース選手が試合や練習に励む雰囲気を感じながら野球を楽しめる小田南公園野球場やくつろげる広場、散歩やランニングができる周遊コースも整備するなど、ここにしかない、魅力ある公園が 2025 年 3 月に誕生します。

さらに、太陽光発電・蓄電池の導入や廃棄物発電の活用、省エネの徹底による「脱炭素化」をはじめ、ペットボトル・プラスチックカップの回収・リサイクルや雨水・井水の活用といった環境に優しい取組を行い、整備、運営することで脱炭素社会や循環型社会に資する新しい野球場、公園を創造していきます。

※脱炭素先行地域:2050 年カーボンニュートラルに向け、先行的な取組により、家庭や店舗・ビル等（民生部門）での電力消費に伴う CO2 排出量を実質ゼロにすることなどを実現する地域として、環境省が選定するもの



3.2 環境への取組み

ゼロカーボンベースボールに係る環境への主な取組は下表の通りです。

	太陽光発電・蓄電池の導入	太陽光発電は日鉄鋼板 SGL スタジアム 尼崎のスコアボード背面や室内練習場、選手寮兼クラブハウス屋上に設置し、さらに蓄電池も設置することで、太陽光発電で発電した電力を極力自家消費できるようにします。太陽光発電の発電量は年間約 73 万 kWh を計画しており、これはナイターゲームも開催予定の日鉄鋼板 SGL スタジアム 尼崎で推定される年間電力使用量の 80%以上となります。
	省エネの徹底 (ZEB Ready 化・ZEB Oriented 化)	高性能断熱材の屋根や壁、Low-E 複層ガラス、高効率空調機（高効率型ヒートポンプパッケージエアコン）、全熱交換器、昼光センサー・調光機能付き LED 照明、高効率給湯機（ヒートポンプ式給湯器、潜熱回収型ガス給湯器）、高効率型モーターによる換気設備等の採用や、それらの電力消費量を「見える化」するエネルギーマネジメントシステムの導入により、野球施設として初めて、日鉄鋼板 SGL スタジアム 尼崎は ZEB Oriented、室内練習場及びクラブハウスは ZEB Ready の認証獲得を目指しています。 ZEB Ready：従来の建物に必要なエネルギー消費量から 50%以上のエネルギー消費量削減に適合した建築物 ZEB Oriented：延べ面積が 10,000 m²以上の建物で、従来の建物に必要なエネルギー消費量から 40%または 30%（建物用途による）以上のエネルギー消費量削減に適合した建築物
	クリーンセンターの廃棄物発電の活用	太陽光発電及び蓄電池による電力で不足する分は、「尼崎市エネルギー地産地消促進事業」に基づき尼崎市のクリーンセンター（ごみ焼却施設）で発電された CO₂ 排出量ゼロのクリーンエネルギーを活用することで、脱炭素に取り組めます。
	バイオマス製品の活用	球場内売店で利用する飲食包材は紙をはじめとするバイオマス素材を活用するとともに、使用するレジ袋もバイオマス素材配合の袋を活用します。
	ペットボトル・プラスチックカップの回収・リサイクル	球場内で発生したペットボトルやプラスチックカップについて分別回収し、リサイクルに取り組めます。またペットボトルのキャップ・ラベルの除去依頼をはじめ、お客様に向けて回収の協力を呼びかけることで、日常でのリサイクル実施の重要性の理解を促進します。

	雨水・井水の活用	日鉄鋼板 SGL スタジアム 尼崎の屋根に降った雨水を地下貯留槽に貯め、新たに掘削のうえ地下に貯留する井水と合わせてグラウンド等への散水やトイレの洗浄（来場者はじめ選手等が利用するすべてのトイレ）に利用します。1日に想定される最大利用量（約 300 m³）をすべて雨水・井水で賄うことを想定しています。
	以前の公園内にあった樹木（イチョウやウメなど）の移植	以前の小田南公園内にあった樹木のうち、現在来園者に親しまれていたイチョウやウメをはじめとした一部樹木について、工事期間中は別の場所に移植・管理した後、新たな公園内に移植いたします。加えて、四季を感じる様々な樹木を新たに植樹します。
	公共交通機関を利用した来場の呼びかけ実施	駅から近い利便性の良い立地であるため、一人当たりの二酸化炭素排出量が少ない鉄道やバスでの来場を促進することで、自動車の使用抑制及び渋滞緩和による CO2 排出量の削減を図ります。
	太陽光発電量や二酸化炭素削減量の見える化	脱炭素化への取組について試合時の球場内ビジョン等で見える化することで、来場者の環境保全活動に対する関心を高めていきます。

3.3 環境への取組みで期待される主な効果

阪神タイガースファームの試合だけでなく、試合以外のイベント等に多くの集客が見込まれており、これらの来場者に対して、当社グループと尼崎市が協力して駅の脱炭素化、EV バス・シェアサイクルの導入など来場時の交通の脱炭素化を進めることや、先行地域内で行われる脱炭素の取組（ゼロカーボンナイターの開催、廃棄物発生の抑制及びリサイクルの推進など）を PR すること等により、小田南公園を含むエリア全体での交流人口の増加による経済効果と脱炭素普及啓発を同時達成します。

また、各種取組により、民生部門（家庭部門及び業務その他部門）の電力消費に伴う CO2 の排出を 2030 年度までに実質ゼロを目指します。

4. グリーンファイナンス・フレームワーク

本フレームワークは、国際資本市場協会（ICMA）の「グリーンボンド原則（GBP）2021」、ローンマーケットアソシエーション（LMA）、アジア太平洋地域ローンマーケットアソシエーション（APLMA）及びローン・シンジケーション&トレーディング・アソシエーション（LSTA）の「グリーンローン原則（GLP）2023」並びに環境省の「グリーンボンドガイドライン（2024年版）」及び「グリーンローンガイドライン（2024年版）」に基づき策定しており、以下の4つの要素について定めています。

また、本フレームワークの原則等との適合性について外部評価（セカンドオピニオン）を株式会社格付投資情報センター（以下、「R&I」という）より取得しています。

1. 調達資金の使途
2. プロジェクトの評価及び選定プロセス
3. 調達資金の管理
4. レポーティング

4.1 調達資金の使途

グリーンファイナンスで調達した資金は、以下の適格クライテリアを満たすプロジェクト（以下、「適格プロジェクト」という）に関連する新規支出及び／または既存支出のリファイナンスに充当する予定です。

なお、資金使途がリファイナンスである場合は、グリーンファイナンスの実行から遡って3年以内に実施した適格プロジェクトへの支出に限ります。

適格プロジェクトの概要については下表の通りです。

対象となる適格プロジェクト

適格プロジェクト (資金使途)	GBP プロジェクト分類	適格クライテリア
「ゼロカーボンベースボールパーク整備計画」に沿った阪神タイガースファーム施設※1の移転	エネルギー効率 (省エネルギー性能の高い建築物の新築)	グリーンファイナンス実行時点において有効な以下のいずれかの認証もしくは評価を取得・更新した建物、または将来取得・更新予定の建物の建設 ・ZEB、Nearly ZEB、ZEB Ready、ZEB Oriented ・建築物・住宅の省エネ性能を表す指標（BEI 等）で、ZEB・ZEH 基準以上の水準相当

※1

適格プロジェクトの対象となる阪神タイガースファーム施設は以下の3施設です。

●日鉄鋼板 SGL スタジアム 尼崎



●室内練習場



●選手寮兼クラブハウス



4.2 プロジェクトの評価及び選定プロセス

グリーンファイナンスで調達した資金が充当される適格プロジェクトは、「阪急阪神ホールディングスグループ サステナビリティ宣言」のうちの「環境保全の推進」や「カーボンニュートラルに向けた基本的な取組方針」に合致しているプロジェクトとしております。

また、適格プロジェクトの選定においては、グループ経営企画室経理部が中心となり、グループ経営企画室サステナビリティ推進部や当社子会社である阪神電気鉄道株式会社の所管部署の助言を受けながら、グリーン適格クライテリアへの適合状況を確認し、代表取締役社長が最終承認を行います。

なお、すべての候補となる適格プロジェクトについては、事業実施の所在地の国・地方自治体において求められる環境関連法令等の順守、必要に応じた環境への影響調査の実施、地域住民への十分な説明の実施等を適確に行っております。

4.3 調達資金の管理

当社のグループ経営企画室経理部がグリーンファイナンスで調達した資金について、適格プロジェクトへの充当及び管理を行います。当社のグループ経営企画室経理部は、グリーンファイナンスの調達金額と同額が適格プロジェクトに充当されるよう四半期毎に内部会計システムを用いて追跡管理します。なお、未充当資金は現金または現金同等物で管理します。12か月程度で充当を完了する予定です。

4.4 レポートニング

グリーンファイナンスで調達した資金の充当状況並びに環境への効果（インパクト）として当社が定めた以下の内容について、資金充当レポートニングについては、調達資金の全額が充当されるまでの間、またインパクト・レポートニングについては、グリーンファイナンス実行から償還または弁済までの期間、合理的に実行可能な限りにおいて、年 1 回、当社ウェブサイトで開示または貸し手に対して報告（ローンの場合のみ）します。

（ア）資金充当レポートニング

- ① 充当した資金の額
- ② 未充当資金の概算額、充当予定時期及び未充当期間の運用方法
- ③ リファイナンスに充当した場合の概算額または割合

（イ）インパクト・レポートニング

適格プロジェクト	GBPプロジェクト分類	環境改善効果
「ゼロカーボンベースボールパーク整備計画」に沿った阪神タイガースファーム施設の移転	エネルギー効率 （省エネルギー性能の高い建築物の新築）	下記指標のいずれかまたはすべてを開示 【CO2排出量】 ・民生部門での電力消費に伴うCO2排出量 【電気使用量】 ・年間電気使用量 【水使用量】 ・年間水道使用量 【認証等の取得状況】 ・取得した認証・評価の種類とその内容

以 上